

**書評 健康・スポーツ科学のための卒業論文 /  
修士論文の書き方; 杏林書院; 出村慎一, 山次俊介  
/ 著**

著者	山口 豊, 窪田 辰政, 山田 幸雄
著者別名	YAMAGUCHI Yutaka, KUBOTA Tatsumasa, YAMADA Yukio
雑誌名	大学体育研究
巻	40
ページ	105-106
発行年	2018-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00151278">http://hdl.handle.net/2241/00151278</a>

## 健康・スポーツ科学のための卒業論文 / 修士論文の書き方

杏林書院

出村慎一, 山次俊介 / 著

山口 豊<sup>1)</sup>, 窪田辰政<sup>2)</sup>, 山田幸雄<sup>3)</sup>

### Writing a Thesis about Health and Sport Sciences

Kyorin-shoin

Shinichi Demura, Syunsuke Yamaji

Yutaka YAMAGUCHI<sup>1)</sup>, Tatsumasa KUBOTA<sup>2)</sup>, Yukio YAMADA<sup>3)</sup>

#### 1. はじめに

今日の健康・スポーツ科学分野では、学生の論文作成のための時間は多くはない。また、感想文や随筆と違い論文は、科学的アプローチによる検証方法で書かれる必要がある。このようなことから、研究者になる学生はともかく、学部卒や修士修了後に実務に就こうと考えている多くの学生にとって、卒業論文や修士論文作成のハードルは高い。「どうやって書けばいいのか？」に悩まされる。さらに、今日の科学的論文の多くは、量的な統計処理や質的なナラティブ分析を要求する。これらに慣れていく必要がある。特に統計処理は、その根本から理解しようとするれば、統計の勉強だけで学生生活の大半が過ぎてしまうだろう。例え、特定の統計処理の仕方だけを抽出し学ぼうとしても、どの統計処理方法を選べばいいか悩むことになる。4年

間ないし6年間という学生生活の時間は貴重であるから、統計処理を学ぶためだけに割くわけにはいかないだろう。

これらのことから、論文作成にあたって、スポーツ科学系の学生に理解しやすいガイドブックが求められる。そのような要求に応えたものが、本書「健康・スポーツ科学のための卒業論文 / 修士論文の書き方」である。著者の一人である出村慎一氏は、筑波大学体育研究科の課程を修了しており、スポーツ科学に精通している。そのような専門家が記述しているところからも、スポーツ科学系の学生には適切な著書であると言える。

本書では次のような内容が示されている。

- 
- 1) 東京情報大学
  - 2) 静岡県立大学
  - 3) 筑波大学

## 2. 本書の内容

### 1章 健康・スポーツ科学における卒業論文や修士論文とは

本章では、論文を書き始める前の基礎的な知識として、感想文との違いなどの「学位論文とは何か」や、量的・質的研究の違いなどの「研究とは何か」について、概略が簡潔に記されている。

### 2章 研究にとりかかる～どんなことを研究するか考える～

次に、本章では、研究テーマの設定、仮設の設定、研究方法の選択、研究限界といった、実際に論文を書き始める前に不可欠な内容が要領よくまとめられている。また、論文作成においてよく遭遇する問題についても取り上げており、さらにその解決策が記述されているなど、読者目線で書かれている点も親しみやすく良い。

### 3章 卒業論文・修士論文を作成する。

いよいよ論文作成の本丸の章だが、ここも丁寧な記述がなされている。普段は見過ごしてしまう内容である論文のフォーマットの確認なども指摘されている。実際に書式が図として掲載され、論文の構成（章立てなど）も一覧になっている。さらに、序論、先行研究、研究方法、結果、考察などに関して、その中身についてのより詳細な研究プロセスがまとめられている。このようなプロセスを参考にすれば、論文作成は容易に進んでいくに違いない。

### 4章 論文作成におけるルールや注意点

以上に書かれた通り論文作成は進んでいくが、本章では日本語の使い方や単位の使用方法、

図表を用いる方法のルールと注意点が記述されている。初めて論文を書く者にとっても、一層完成度の高い論文作成につながる内容が記されているのが本章である。

### 5章 研究に取り掛かるための基礎知識

本章からは、第Ⅱ部ということで、研究そのもののやり方をまとめている。具体的には、データ測定のための注意点やインフォームド・コンセント、実験や調査研究の手順などである。

研究では、実際にデータを取ってから「しまった、これが不足していた、こうすればよかった」と後悔することがある。しかし、この章をしっかりと読むことにより、そのような失敗が回避される可能性は高い。実際の論文作成にあたっては、本章から読み進めることも有効だと考えられる。

### 6章 データ処理の基礎知識

本章では、データ処理について記述されている。統計処理に対して苦手意識のある人にも、基礎から記述されているのでわかりやすい。具体的な検定方法が記述されており、実際の論文作成にすぐに役立つことができる内容である。

## 3. まとめ

本書の内容については、上記のようである。一読して最も強く感じたことは、健康・スポーツ科学学生にとって、論文作成について知りたい内容がわかりやすく記述されているということである。科学的な論文作成にあたって、この上ないほど親切な本である。学生には、是非一読をすすめたい。早めの論文対策として本書を活用し、有意義な学生生活を送れることを願う。